

平成30年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (乾 隆 幼稚園)

教育目標

心身共に健やかでたくましい子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none">子どもが主体的に心を動かし、夢中になって遊び込める保育を推進したことで、子どもが遊びの中で様々な学びを深めたり、発展させようとするなどの学びに向かう力が育まれた。今後も子どもたちの確かな学びが得られるよう、子どもを継続的に捉え、適切な教師の援助に努める。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">子どもたちをいつも丁寧に一人一人大切に、保育をすすめてもらっているので、子どもたちの自己肯定感が育まれている。とても有難い。これからも、一人一人を徹底的に大切にする市立幼稚園の教育が地域に浸透するよう、力になりたいと考えている。地域との連携も更に積極的に進めていただきたい。できるだけの協力をていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月23日	学校運営協議会 理事
最終評価	3月12日	学校運営協議会 理事

(1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実

具体的な取組

- 幼児が主体的に心を動かし夢中になって遊び込み、楽しさが味わえるよう環境構成や教師の援助の在り方を考え、子どもの姿からの保育の見直し。
- ・ 子どもの命を守りきるために安全環境を整備に努め、子どもが安心安全に活動できる環境づくり。
- 子ども一人一人へのねらいをもち計画性をもった保育と子どもの姿から1日の保育を振り返り、改善していくP D C A サイクルの確立。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 幼児の姿の変容、事例検討
- アンケート項目①「子どもは楽しんで幼稚園に通っているか」②「幼稚園の環境は子どもが豊かな体験ができるよう整えられているか」③「幼稚園の安全管理は適切だと思いますか」

中間評価

各種指標結果

- ・ 幼児の姿の変容について、写真を用いた事例研究、分析表を用いた分析、考察、検証などを行った。
- ・ アンケート結果①A・B 95% C 5% ②A・B 100% ③ A・B 90% C 10%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ アンケート結果より、③の安全管理についてはBの回答の割合が多かった。
- ・ 幼児の主体的な活動を通して学びに向かう力を育むための教師の援助や環境構成の在り方について、研究をすすめながら保育をする中で、教師のかかわりや援助、環境を見直すことができた。
- ・ 事例研究は分析表を用いて、教師間のカンファレンスを重ねることで、子どもの見取り方の浅さや偏りがあることが明らかになった。このことは教師の保育の振り返りになったとともに教師間で共有ができたことは学びにつながった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 幼児の姿の変容を継続的に記録を通して検証しながら、幼児の学びが更に深まっていくよう、援助に努める。
- ・ 幼稚園の安全管理については、教師の意図的な環境構成や保育のねらいを保護者に発信しながら管理体制を更に整えていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 幼児の姿の変容について、事例検討で更に願いや見通し、課題を的確に捉え、適切な援助や環境構成をしていく。
- ・ 10の姿を意識しながら、教師の子どもの見取り方を深め、幼児理解につなげる。
- ・ 保護者アンケートの結果

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 運動会を参観して、一人一人の幼児がいきいきと、参加している様子がとても良かった。年長組のリレーは発達段階を考えた工夫がみられた。一生懸命、頑張る姿が感動的だった。日頃の保育が楽しいものだったことが伺える。アンケート結果も望ましい。

最終評価

自己評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・ 日々の幼児の姿の変容やエピソードからの分析
エピソード分析表から、幼児の内面を明らかにしたり、育ちや課題、家庭との連携について見直すことができた。
- ・ アンケート結果委 ①A・B 100% ②A・B 100% ③A・B 86% C 14%

分析（成果と課題）

- ・ 後期、3歳児が園生活に慣れ、安定した気持ちで生活する姿が見られた。
- ・ アンケート結果③のC回答は、総合遊具下の安全マットの劣化が挙げられる。
- ・ 各学年が捉える「10の姿」を踏まえながら、保育を見直したことで、発達段階に応じた教師の援助の在り方を探ることができた。
- ・ 家庭との連携を密に取りながら保育をすすめていく点については不十分な面がある。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もエピソード分析表を用いて、日々の保育を振り返り、個々の育ちを捉えながら、具体的な援助に努める。 総合遊具下の安全クッションマットは年度内に改修をする。 保護者との連携を密に取りながら、園での子どもの姿や様々な情報等も丁寧に伝え、信頼される幼稚園を更に目指していく。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年がそれぞれ学びに向かう力を探り、分析したことで、3歳児から5歳児の発達の過程を捉えることにつながった。今後も幼児が夢中になって遊び込み、確かな学びが得られるよう、教師の援助に努める。 家庭との連携では、子どもの様子や育ちをより具体的に伝えるように工夫する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を全面的に受け止め、見通しをもって保育が進められている。子どもの良さを丁寧に引き出してもられるよう、これからも保育をすすめて欲しい。 地域力を更に高めて、幼稚園の応援団として幼稚園と連携していきたい。子どもは地域の宝である。地域に、子どもの存在や子どもの力を示すためにも共に歩んでいきたいと考えている。

(2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾隆小学校、紫野小学校との年間交流計画の作成 乾隆小学校、紫野小学校、楽只小学校、西陣中央小学校への保育公開、授業参観、合同研修 「親子で絵本！」の取組の定着
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の事前・事後の検討内容について 公開保育・合同研修の回数・内容 「親子で絵本！」の活用 アンケート項目①「保幼小連携、地域との連携等を活かした取組は子どもの心の育ちにつながっていますか」 ②「めざせ100冊親子で絵本！」の取組は楽しめていますか」

中間評価

自己評	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果① A・B 96% C 2% D 2% ② A・B 60% C 38% D 2% 乾隆小学校との管理職間の日常的な情報交換や懇談、休日参観、授業参観、運動会の見学などを行った。また、紫野小学校との保幼小連携の取組を年間計画のもと、交流をすすめている。 めざせ100冊親子で絵本の取組は毎年度、取組をすすめているが、C, D回答が4割であった。
	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を通した取組が、保育の中に取り入れられ、地域の中で子どもたちが育っていると保護者が実感されていると言える。

価 値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との連携は管理職間の特に日常的な連携も含め、子どもたちの生活や遊びの様子を伝えてきている。次年度の入学に向けて、小学校から子どもの様子を参観していただくことも増え、幼稚園教育理解の機会としている。 ・ 親子で読書の取組は幼稚園からの保護者発信や啓発、貸出の方法などに課題がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期以降からの幼小連携に取組については、担任相互が話し合いの機会を増やし、子どもたちに何を育てたいかを明確にしながら連携をすすめていく。 ・ 親子読書の取組については、絵本室環境を整えたり、貸出状況を把握しながらその方法を検討していく。保護者の意見より、多くの本と出合うことは大切であるが100冊が目的になってしまわないよう、保育を通して絵本に興味をもち、絵本が好きと思える子どもになるように取組んでいきたい。子どもの姿を通して家庭での取組につなげていきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾隆小学校との子ども同士の交流の意味を教師間で機会を増やし、互いの育ちにつなげる取組となるようにする。 ・ 保護者アンケートの結果 ・ 親子読書ノートの貸出状況
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めざせ100冊親子読書の取組は、卒業してみて今、振り返ると、親として子どものつぶやきを記しておけば良かったと後悔するが、当時は書く余裕がなかった。どうすればノートが活用し易くなるのかを園と家庭とで見直してみてはどうか。 ・ 幼児期から絵本が好きになることは小学校での学習の基礎につながる。とても良い取組なので大切に続けて貰いたい。 ・ 子どもの興味のある本を集めることができて読書が好きになった。子どもの選ぶ本や傾向、興味関心を捉えていきたい。幼稚園でも季節の絵本、お薦め絵本などを紹介してはどうか。子どもたちの興味が広がっていくのではないだろうか。 ・ 幼稚園が地域の方々に見守られている中で、子どもが育っていることが伺える。乾隆まつり、敬老会など、幼稚園児の発表は地域としても有難く、感謝している。地域と幼稚園の連携を更に確かなものにしていきたい。

最終評価

自己 評 価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校への園内研究の取組の発信や子どもの様子の日々の伝達や共有に努めた。 ・ 親子読書の取組については、アンケート項目の文言を再検討したことでの意義や大切さなどの理解につながったと思われる。また、幼稚園からも啓発することで親子の触れ合いの機会にもつながった。 ・ アンケート結果① A・B 95% C 5% <p>アンケート項目②「『めざせ100冊親子で絵本』の取組から、親子での絵本の時間を楽しめていますか」結果 A・B 85% C 10% D 5%</p>
	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な小学校との教師間連携の中で、子どもの主体性を重視した保育についての話し合いの機会を多くもつことができた。就学支援についても丁寧にすすめることができ、子どもの円滑な接続につながりつつある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校に園内研究の取組を示したことは、幼稚園が小学校段階以降に育むべき資質・能力の基礎を総合的に育成していることをしらべてもらう機会になり、幼稚園教育の発信につながった。 ・「親子で絵本」の取組では冊数や数字重視ではなく、親や教師との触れ合いを通して子どもが絵本や物語に興味関心がもてるようになっていることを啓発したことで、理解が深まった。
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との定例会の実現に向け、更に積極的に働きかけていく。 ・ 読書指導や絵本の扱いなどを各学年毎に指導し、絵本が身近で楽しい教材として、子どもが興味関心をもつようにし、また言葉に対する感覚も育んでいく。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との交流では、接続カリキュラムを視野に入れた年間交流計画を作成する。 ・ 「親子で絵本」の取組は学校運営協議会理事様のご意見も参考に、子育て中であっても少しの意識でノートの楽しさが増したり、良い思い出の記録にもなったりしていくことを園からも啓発し、親子の触れ合いを通し絵本が好きな子どもを育んでいく。

	<p>(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心・体・生活習慣</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じた、子どもが必要感がもてる生活習慣の定着と家庭との連携 ○ 思わず体を動かしたくなるような、保育環境の工夫と教師の援助、見通しをもった保育計画 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 週案・子どもの姿の事例検討 ○ アンケート項目①「子どもは幼稚園生活を通して心身共にたくましくなってきたと思いますか」 <ul style="list-style-type: none"> ②「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
--	--

自己 評 価	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果 ① A・B 95% C 5% ② A 30% B 55% C 15% ・ 総合遊具、一輪車、竹馬、一本歯下駄、竹ぼっくり、しっぽとり、帽子取りなど学年の発達段階に応じた運動的な遊びを教師が意図的に取り入れ、体を動かす充実感が味わえ、主体的に挑戦する姿が見られた。 ・ 生活習慣の確立に向けて、子どもが必要感をもち、生活をすすめる様子が伺えた。
	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート①「心身ともにたくましくなってきたと思いますか」では95%がA回答であった。幼稚園の環境を通して、子どもたちが自ら体を動かす喜びを感じ、全身で活動する様子をたくましく感じておられることが伺える。 ・ アンケート②「自分のことは自分でしようとしていますか」ではA回答が30%である。

	<p>C回答が15%あり、保護者の子どもへの期待が大きく、厳しい評価である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の確立については、個々の発達に応じ、家庭との連携を取りながら、子どもの様子を丁寧に伝え、指導していくことが必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の発達に必要な経験や活動を教師が読み取り、適切な環境構成や援助を工夫する。 子どもが最後まで諦めずに自信をもってやり遂げ、達成感を味わえるような援助に努める。 子ども自身が健康な生活を送る意識が深まるよう、保健職員による保健指導や保護者への保健だよりを通して工夫していく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 週案、事例検討、研究発表に向けた取組からの検証 アンケート結果 保健指導の年間計画の作成と毎月の見直し
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会の様子から子どもたちが一生懸命、全身を使って思い切り活動する姿にたくましさを感じた。幼稚園に通い、友達や先生とのかかわりを通して育っていくのだなと感じる。 親は周りの子どもたちと我が子を比べてしまうが、子ども一人一人の育ちの過程を丁寧に受け止め、認めていきたいものである。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日マラソンの取組は、子どもたちの体力増進につながり、体を動かす喜びを感じる子どもの姿が全学年伺える。 各学年とも体を動かす活動を設定しており、年間を通して教師の意識が高い。 アンケート結果① A・B 100% ② A・B 86% C 14%
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日マラソンでは保護者も巻き込み、ラジオ体操を実施することで、子どもたちの更なる意欲へとつながった。 主体的に必要感を感じながら、生活習慣が身につくための指導においては発達段階を配慮することが不十分である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態や興味関心を丁寧に探りながら、個々に必要な指導や援助を適切に行えるようにする。
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが自信をもち、自立に向かえるよう、発達段階や個人差に十分配慮し、家庭と連携しながら個々に応じた援助に努める。 小学校への接続に向け、各学年での生活習慣の定着化について話し合う。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の定着化については、家庭との連携が大切である。園からも子ども様子を伝えて貰うなど積極的に働きかけていただきたい。

(4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組

- 安心安定して園生活を過ごすための教師との信頼関係づくり
- 発達に応じた友達との人間関係づくり
- 一人一人の思いを大切にした自己肯定感を育む援助

（取組結果を検証する）各種指標

- 子どもの姿からの事例検討
- アンケート項目①「子どもは家族、先生、友達など周りの人に親しみをもってかかわっていますか」 ②「教職員が連携しながら子どもにかかわっていると思いますか」 ③「教職員は子ども一人一人に温かいかかわりをしていると思いますか」

中間評価

各種指標結果

- ・ アンケート結果 ①A 55% B 46% C 2% ②A 60% B 38%
C 2% ③A 57% B 43%
- ・ 研究保育、事例研究などを通し、子どもの姿を出し合い話し合った。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 保護者アンケートの回答では③は100%の保護者が教職員が温かいかかわりをしていると評価されている。
- ・ 園内研究、研究保育、事例研究などを通し、子どもの見方や内面の捉えについての話し合いや分析を深めた。子どもを多面的に捉え、認めていくことで子どもの自己有用感にもつながった。
- ・ 教職員が連携して子どもにかかわっているかの項目ではC評価があった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 今後も教職員がチーム保育に努め、温かいかかわりの中で子どもたちが自己表出や葛藤を経験しながら、相手の思いに気付いたり、自分の気持ちを調整できるような力が育まれるよう、援助を心掛けていく。
- ・ 子どもたちが主体的に取り組み、夢中になって遊びこめる環境を工夫していく。
- ・ 教職員間の更なる連携強化に努める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ アンケート結果
- ・ 一人一人が自信をもって自分らしさを十分に発揮できる援助
- ・ 人権研修、園内研究での事例検討

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 教職員の温かいかかわりの中で、子どもたちが自己肯定感や自己有用感をもち、成長していくことがわかる。アンケート結果も望ましい。これからも一人一人丁寧にかかわって欲しい。
- ・ 運動会での教職員の子どもへのかかわりでその様子が伺えた。教職員の一生懸命さが子どものたちの成長につながっていると感じた。また、地域に幼稚園の教育を観てもらう良い機会だと感じる。更に今後も教育の発信をして欲しい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">エピソード分析表から、子どもの葛藤や自律に向かう瞬間など、様々な場面を見取ることができた。その中で、教職員が連携しながら、子どもの思いをありのまま受け止め、認めることで、自己肯定感や信頼感、折り合う心などが育まれていることがわかった。アンケート結果 ① A・B 98% C 2% ② A・B 98% C 2% ③ A・B 98% C 2%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">アンケート結果からも、教職員が子どもたちの多様な姿を丁寧に受け止めることにより、安心安定感をもち、生活することができた。教職員間がチーム保育を実践し、情報の共有を図りながら適切な連携ができた。保護者との連携においては子どもの様子を丁寧に伝えることに不十分な面がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">学級全体の保護者に向けて、また個々の保護者に向けての説明や伝達は、丁寧に進めるようになりし、保護者が不安感や疑問を抱かないよう、しっかり説明責任を果たし、信頼関係を更に深める。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">子どもの内面に添った支えや励ましを丁寧にしながら、心の変容を捉え、援助していくことで子どもの「やり遂げたい」という意欲に繋げ、学びに向かえるようにしていく。子どもたちが安心感をもち、自信をもって自己発揮できるような保育を推進する。地域との交流で様々な人に親しみをもち、社会の一員として自覚の芽生えを育む。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">地域との行事や様々な交流を通して、子どもたちがこのような力を育んでいくような機会になれば良いなと思っている。これからも連携をすすめていきたい。